

CASBEE_Sapporo2014v1.0
札幌駅前共同ビル

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.0
■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		重点評価項目: W 省エネルギー・省資源、G 緑化、S 雪処理		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目			環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
	W	G	S							
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 騒音						3.4	0.15	-	-	3.4
1.2 遮音						3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能					遮音性能T-2としている。	4.2	0.40	-	-	
2 界壁遮音性能						5.0	0.60	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	0.40	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音						3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境										
2.1 室温制御						3.1	0.35	-	-	3.1
1 室温				W		3.3	0.50	-	-	
2 外皮性能						3.0	0.39	3.0	-	
3 ゾーン別制御性					ペリメーター、インテリア、ゾーン毎に冷房暖房の選択可能。	3.0	0.24	3.0	-	
2.2 湿度制御						4.0	0.37	-	-	
2.3 空調方式						3.0	0.20	3.0	-	
3.0						3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境										
3.1 昼光利用						3.1	0.25	-	-	3.1
1 昼光率						3.0	0.41	-	-	
2 方位別開口				W		3.0	0.50	3.0	-	
3 昼光利用設備						-	-	3.0	-	
3.2 グレア対策				W		3.0	0.50	3.0	-	
1 昼光制御						3.0	0.25	-	-	
3.3 照度					全般照明方式で設計照度:750lxとしている。	3.0	1.00	3.0	-	
3.4 照明制御						4.0	0.13	3.0	-	
						3.0	0.21	3.0	-	
4 空気環境										
4.1 発生源対策						3.5	0.25	-	-	3.5
1 化学汚染物質						3.0	0.50	-	-	
2 気体汚染対策						3.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気						4.0	0.30	-	-	
1 換気量					必要換気量の1.2倍としている。	4.0	0.36	3.0	-	
2 自然換気性能						3.0	0.29	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮					空気取り入れ口は各種排気口と異なる方向で、6m以上離れている。	5.0	0.36	3.0	-	
4.3 運用管理						4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視					事務所部分は室内CO ₂ センサーにより給排気量を制御している。	5.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御						3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ						3.7	0.40	-	-	3.7
1 広さ・収納性					事務室については、1人/10㎡とし計画している。	3.2	0.40	-	-	
2 高度情報通信設備対応						4.0	0.28	3.0	-	
3 バリアフリー計画						3.0	0.28	3.0	-	
1.2 心理性・快適性						3.0	0.44	-	-	
1 広さ感・景観					事務所天井高さ:2.8mとし計画している。	4.0	0.30	-	-	
2 リフレッシュスペース						4.0	0.36	3.0	-	
3 内装計画					建物コンセプトを綿密に練り、パス、大きな模型での照明計画での	3.0	0.28	-	-	
1.3 維持管理						5.0	0.36	-	-	
1 維持管理に配慮した設計					維持管理に配慮した計画としている。	4.0	0.30	-	-	
2 維持管理用機能の確保						5.0	0.50	-	-	
3 維持管理業務						3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震						3.0	0.30	-	-	3.0
1 耐震性						3.0	0.50	-	-	
2 免震・制振性能						3.0	0.80	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						2.8	0.30	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				W		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				W		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				W		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				W		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				W		2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						3.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備					節水型便器の採用し、またBCP対応をしている。	5.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備					各種通信手段の多様化を図り、浸水、災害時対応をしている。	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性										
3.1 空間のゆとり						3.4	0.30	-	-	3.4
1 階高のゆとり					階高:4.15m以上としている。	4.6	0.30	-	-	
2 空間の形状・自由さ					0.1≦壁長さ比率:0.177<0.3	5.0	0.60	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり						4.0	0.40	3.0	-	
3.3 設備の更新性						3.0	0.30	3.0	-	
1 空調配管の更新性						2.8	0.40	-	-	
2 給排水管の更新性						2.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性						3.0	0.20	-	-	
4 通信配線の更新性						3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性						3.0	0.10	-	-	
6 バックアップスペースの確保						3.0	0.20	-	-	

CASBEE_Sapporo2014v1.0
札幌駅前共同ビル

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.0
■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.1)

スコアシート		実施設計段階		重点評価項目: W 省エネルギー・省資源、G 緑化、S 電処理		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目			環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数		
	W	G	S							
Q3 室外環境(敷地内)										
1 生物環境の保全と創出		G			2.0	0.30	-	-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮		G		周辺環境との調和等に配慮している。	4.0	0.40	-	-	4.0	
3 地域性・アメニティへの配慮										
3.1 地域性への配慮・快適性の向上			S	地域に開かれた公共スペースを充実させている。	3.0	0.30	-	-	3.0	
3.2 敷地内温熱環境の向上	W	G			4.0	0.50	-	-	4.0	
					2.0	0.50	-	-	2.0	
LR 建築物の環境負荷低減性										
LR1 エネルギー										
1 建物外皮の熱負荷抑制										
	W			BPI:0.868	4.3	0.19	-	-	4.3	
2 自然エネルギー利用										
	W			オフィスフロアに自然換気窓を設置	4.0	0.10	-	-	4.0	
3 設備システムの高効率化										
集合住宅以外の評価(3a,3b)	W			BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) -	3.6	0.51	-	-	3.6	
集合住宅の評価(3c)	W			BEI 0.93	3.6	1.00	-	-	3.6	
					-	-	-	-	-	
4 効率的運用										
集合住宅以外の評価					4.0	0.20	-	-	4.0	
4.1 モニタリング	W			DHC廻りの冷温水温度、室内温湿度、各機器状況、電力量等をモニタリング	4.0	1.00	-	-	4.0	
4.2 運用管理体制	W			目録値について、1年目:省エネ計画書、2年目以降:実測値を基に管理	4.0	0.50	-	-	4.0	
集合住宅の評価					4.0	-	-	-	4.0	
4.1 モニタリング	W				4.0	-	-	-	4.0	
4.2 運用管理体制	W				4.0	-	-	-	4.0	
					4.0	-	-	-	4.0	
					4.0	-	-	-	4.0	
LR2 資源・マテリアル										
1 水資源保護										
1.1 節水										
				節水型FV(大便器、小便器)、定水弁付水栓の採用。	4.0	0.40	-	-	4.0	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用										
1 雨水利用システム導入の有無				地下ピットに雨水貯留槽の設置し、各所の便所の洗浄水として利用。	3.7	0.60	-	-	3.7	
2 雑排水等利用システム導入の有無					4.0	0.70	-	-	4.0	
					3.0	0.30	-	-	3.0	
2 非再生性資源の使用量削減										
2.1 材料使用量の削減	W				3.7	0.60	-	-	3.7	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W				3.0	0.10	-	-	3.0	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W				3.0	0.20	-	-	3.0	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W			ビニル床材、タイルカーペット、再生材料を用いた舗装用ブロック	5.0	0.20	-	-	5.0	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W				2.0	0.10	-	-	2.0	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W			躯体打込みはなく、仕上軽鉄を立て容易に躯体と仕上を分離	5.0	0.20	-	-	5.0	
3 汚染物質含有材料の使用回避										
3.1 有害物質を含まない材料の使用										
				有害物質を含まない材料選定	3.6	0.20	-	-	3.6	
3.2 フロン・ハロンの回避										
1 消火剤	W			不活性ガスを使用している。	5.0	0.30	-	-	5.0	
2 発泡剤(断熱材等)	W				3.0	0.70	-	-	3.0	
3 冷媒	W				4.0	0.33	-	-	4.0	
					2.0	0.33	-	-	2.0	
					3.0	0.33	-	-	3.0	
LR3 敷地外環境										
1 地球温暖化への配慮										
				LCCO2を極力抑えている。	3.2	0.33	-	-	3.2	
2 地域環境への配慮										
2.1 大気汚染防止										
	W				3.1	0.33	-	-	3.1	
2.2 温熱環境悪化の改善										
	W	G	S		3.0	0.25	-	-	3.0	
					3.0	0.50	-	-	3.0	
2.3 地域インフラへの負荷抑制										
1 雨水排水負荷低減	W			外構には浸透枳を設け、地下ピットに雨水貯留槽を設けている。	3.7	0.25	-	-	3.7	
2 汚水処理負荷抑制	W				4.0	0.25	-	-	4.0	
3 交通負荷抑制				札幌市建築物における駐車施設の設置等に関する条例を満たした計	3.0	0.25	-	-	3.0	
4 廃棄物処理負荷抑制	W		S	廃棄物処理負荷に関する抑制を行っている。	4.0	0.25	-	-	4.0	
					4.0	0.25	-	-	4.0	
3 周辺環境への配慮										
3.1 騒音・振動・悪臭の防止										
1 騒音					3.1	0.33	-	-	3.1	
2 振動					3.0	0.40	-	-	3.0	
3 悪臭					3.0	0.33	-	-	3.0	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制										
1 風害の抑制					3.0	0.40	-	-	3.0	
2 砂塵の抑制					3.0	0.70	-	-	3.0	
3 日照障害の抑制					3.0	-	-	-	3.0	
3.3 光害の抑制										
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				「光害対策ガイドライン」の過半を満たし、広告物照明がない計画。	3.7	0.20	-	-	3.7	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					4.0	0.70	-	-	4.0	
					3.0	0.30	-	-	3.0	